



すいたみなみしょうがっこう

吹田南小学校だより

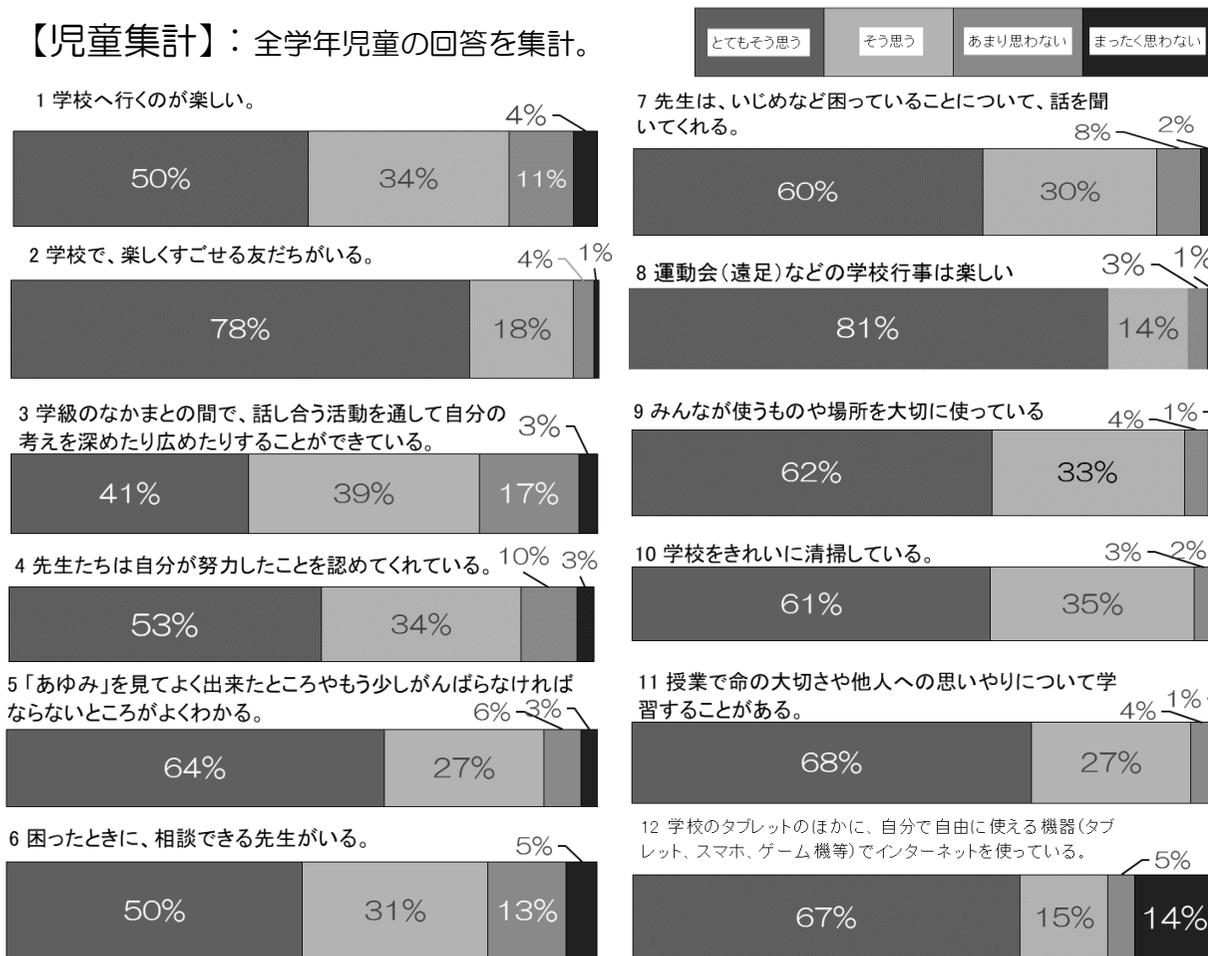
令和6年
(2024年)
学校アンケート号

学校教育目標 「つたえよう わたしの思い うけとめよう あなたの思い」

令和5年度学校アンケートのご回答ありがとうございました

過日実施いたしました「学校アンケート」に対しまして、多くのご回答をいただき、誠にありがとうございました。今号では、いただいた回答の集計結果についてグラフで報告させていただくとともに、自由記述でいただいたご意見に、お答えさせていただきます。

【児童集計】：全学年児童の回答を集計。



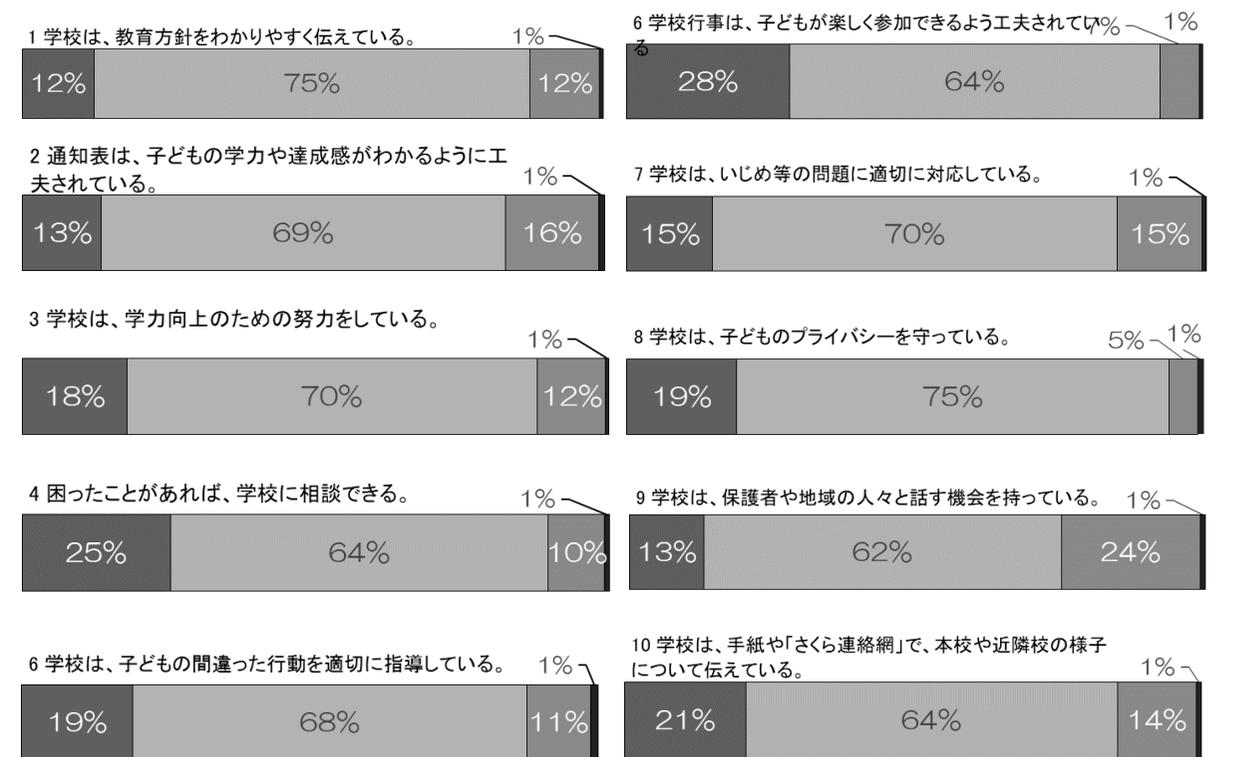
※割合は、各々四捨五入しているため、合計が100%にならないことがあります

「とてもそう思う」「そう思う」の2つを合わせた肯定的回答は、1～11のどの項目でも80%を超えました。中でも「2.学校で、楽しくすごせる友だちがいる」や「8.運動会(遠足)などの学校行事は楽しい」は特に肯定的であり、アフターコロナの5月以降は、制限もなく、対面式で活動できることや、たくさん保護者が見に来てもらえる学校行事が楽しいことがわかります。

一方「1.学校に行くのが楽しい」の設問で、否定的な回答をした児童が15%いました。本来この項目は「0」であるべきもので、原因が学習のことなのか友人関係なのかを探っていかなければなりません。また同様に「6.困ったときに相談できる先生がいる」の項目も18%の児童が否定的回答をしています。全ての教職員がカウンセリングマインドを身につけること、また、先生への相談は複数選択肢があることを、児童に理解してもらうことが必要だと感じました。子どもたちは、担任へ気軽に相談できるデイケンをもっと活用してくれたらいいと思います。

自分で自由に使えるスマホや携帯電話の所持率は昨年より5ポイント増加し81%でした。それぞれのご家庭の事情によって、持たせる持たせないの対応は違うと思いますが、持たせる場合は、保護者の了承のもとで使用させていることとなりますので、使用に関して生じるあらゆるトラブルの責任は、ご家庭が負うこととなります。使い方についての話し合いはもちろん、その内容を把握しておくことも必要であることをお考えいただけたらと思います。

【保護者集計：学校のこと】



児童集計結果と同様に、ほとんどの項目で肯定的回答が80%を超えました。多くの方々が、学校教育活動を理解、協力していただいているおかげであると感謝しております。ただ、否定的回答の割合が一定数あるものとして「3.通知表『あゆみ』はわかるように工夫されている(17%)」「7.学校はいじめ等の問題に適切に対応している(16%)」がありました。これらについては適切な対応ができるように心がけていきたいと思っております。また、「9.保護者や地域の人と話す機会を持っている(25%)」については、3ポイント減少し、令和5年度、参観や公開、運動会や音楽会など学校行事や、地域行事が、制限が解除されて実施できた結果と思われる。

【保護者集計：家庭のこと】

1 手紙や「さくら連絡網」等の連絡事項は、十分目を通して
いる。



2 宿題や次の日の準備について、声かけをするなど忘れな
いように気をつけている。



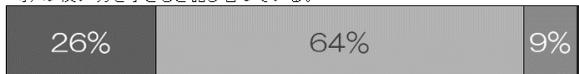
3 学校のことに関心を持ち、子どもと話し合うことがある。



4 放課後や休日の子どもの行動範囲や行先を把握している。



5 インターネットにつながる機器(タブレット、スマホ、ゲーム機
等)の使い方を子どもと話し合っている。



【家庭のこと】では、家庭でのご対応が、おおむね適切になされていることがうかがえました。「5.インターネットにつながる機器の使い方を子どもと話し合っている」の肯定的回答は、昨年度より2ポイント減少の90%でした。一人一台端末が数年目を迎え、各家庭で、タブレットも含めた使い方やルールについて、以前に話し合い、既にルールが定着していればありがたいです。

【「ご意見」について】

自由記述でお書きいただいたご意見やご質問は、同じ内容について多くの方からいただいたご意見やご質問を中心にお答えさせていただきます。なお、全てのご意見にお答えすることは不可能ですので、お聞きになりたいことなどあればご連絡ください。

Q：保護者参加、学校行事の開催について

A：5月に新型コロナが5類に引き下げになり、様々な制限が緩和されました。国や府からは、学校行事を単にコロナ前の形に戻すのではなく、これを機会に子どもたちにとって有意義な学校行事を創造するように通知があり、本校でも、昨年度より、様々な行事について検討を進めてまいりました。今年度、様々な新しい様式による行事を計画し、実施いたしましたところ、たいへん多くの保護者の方々にご参加いただき、子どもたちも教職員もたいへん嬉しく思っております。今年度の形式をベースに、次年度以降も検討を進めてまいります。

Q：欠席等の連絡「さくら連絡網」について

A：令和5年度2学期より、吹田市立の全小・中学校に、「さくら連絡網」というアプリが導入され、欠席、遅刻、早退等の連絡は、これまでの「連絡帳または電話」から、主に「アプリ」による連絡に変更され、保護者の方々から好評をいただいております。入力が8時20分までなので、間に合わなかった場合等は、これまで通り電話でご連絡いただいておりますが、多くのご家庭に「さくら連絡網」を活用いただき、担任は、教室で早い時間に欠席等の把握することができ、朝の会やモジュール授業を定刻に始めることができ、学校もたいへん助かっております。今後も、活用をよろしく願います。

Q：配付物の電子化「さくら連絡網」について

A：これまでも、学校だより、全国学力学習状況調査や学校アンケート結果等は、紙面配付に加え、HPにPDFのリンクを貼っておりました。令和5年度は、上記の「さくら連絡網」の導入を期に、まずは「学校だより」と「学年だより」から配付物の電子化に取り組んできました。令和6年度は、「給食だより」や「保健だより」、その他の「行事の案内」や「連絡事項」の文書も、順次電子化を進めてまいります。

Q：「こころとからだの連絡帳 デイケン」について

A：令和5年11月から、吹田市立の全小・中学校に導入されたWebアプリ「こころとからだの連絡帳 デイケン」は、毎朝の健康観察を、子どもたち自身がタブレットに入力して実施するもので、体だけでなく、心の健康状態（気持ち）を確認できるため、心身両面への支援が可能となっています。例えば、子どもたちが、先生に「相談したい」と伝える機能が入っており、この機能を使えば、自分から職員室に行ったり、先生に声をかけたりしなくても、「相談したい」「悩みがある」ということを伝えられるので、ハードルは低くなります。また、担任も相談はなくても、心の健康状態（気持ち）を確認し、気になる様子がわかれば働きかけることが可能となっています。

Q：一人一台端末の持ち帰りについて

A：タブレットを持ち帰らせる重さの負担を軽減させるため、教科書等の一部を学校に置いて帰るようにしています。持ち帰ったタブレットは、宿題や家庭学習の際に活用していただけたらと思います。またタブレットを使用することに慣れさせていくとともに、大切な学習ツールを自身でも管理することも習慣づけてほしいと考えています。

Q：デジタル・シティズンシップ教育について

A：市内小・中学校では「情報技術の利用における適切で責任ある行動規範に必要な能力を身に付ける教育」を、全学年で行っています。『吹田の子供たちが学ぶ デジタル・シティズンシップ教育～学校・家庭・地域 みんなで善き使い手を育てるために～』の動画や詳細が吹田市立教育センターのHPに公開されています。ご覧ください。

デジタル・シティズンシップ教育

吹田市立教育センターHPから
動画のリンクが張られています。



Q：教職員の研究について

A：学校教育目標「つたえよう わたしの思い うけとめよう あなたの思い」を達成するために、ペアやグループでの学び合いの中で、聞き手に自分の考えや思いをわかりやすく伝える「話す力」、話し手の考えや思いを受け止める「聴く力」の醸成に取り組んできました。また、全国学力学習状況調査の結果から、令和4年度より2年計画で、研究テーマを「伝え合う力を育み、自己表現できる子どもを育てる～一人残さず『わかった!』を実現する授業づくり～」として、対話から生まれた学びを「書く力」にも取り組んでいます。次年度からの研究テーマは、現在検討中であり、後日お知らせいたします。